ESSAY

雑　感

田口鐵男
大阪大学名誉教授

このごろは世界中が社会不安をかかえる大変な時代になってしまった．経済の再建は遅々として進まず，国民の生活行動までも不安定なものとなり，明日への確固たる目標が立てられない現状である．本来，社会不安をなくすことが一番の使命である政治も，まったく国民の期待にこたえる政策目標を提示していない．マスコミは21世紀云々するが，将来像がさっぱり見えてこない．

保健，医療，福祉に関してもたくさんの問題が続出し，国民の生活実感と国の施策との間に大きなひずみができていることが心配である．

予想もしていなかった急激な高齢化社会を迎えてまず困ったことは，日本の医療保険制度がおかしくなってきたことである．

日本の医療は官僚主導の統制経済であるが，このごろは医療保険制度のほころびが目立つばかりでなく，医療そのものを保険の都合に合わせるような始末である．したがって医療従事者の生業は成り立たず，医学の進歩にもかかわらず医療の向上が速やかに患者に還元されにくくなってきている．

統制経済は今どき医療社会ぐらいのものである．公定価格の医療費，薬価の決定はもちろん，医師の免許から処分，病院の監査，薬や治療法の認可まで厚生省に権限が集中しているありさまだ．

その厚生省はいまや，なりふり構わず医療費の抑制に熱中している．私はずっと保険制度はなかなかよい制度だと感心していたが，こと医療保険の運用に関してはどだい無理が多すぎるようだ．

火災保険のような掛け捨て保険で，もしも保険加入者全員が火事を出したら火災保険は成り立たないことは明らかである．こうも医療の需要が多くて，しかも高額医療になると保険がパンクするのはあたりまえである．国公立病院はそれぞれの一般会計から補てんしてなんとか今までつじつまを合わせてきたが，ほころびがひどくて間もなく破綻することはわかりきっている．

にもかかわらずツギハギ式にほころびを解決しようとし，国民をだましだましもっていこうとしている．いまやわが国では300億兆円以上の負債になっているということで，これは１年間の国民総生産額に相当するというからびっくりである．

国鉄・食管問題はもとより医療保険問題そして住専問題，金融問題(銀行問題)，すべて政府官僚の指導政策が失敗したわけである．

日本の国民は江戸時代からこのかたずっと官僚（おかみ）に支配され，何かあればすぐにおかみがなんとかしてくれるものといったパターンでやってきている．これがいけないのである．

国は決して金のなる木をもっているわけではない．すべて国民の税金や料金でまかなわ

れているのである．もう少し国民一人一人が，国すなわち官僚の思いのままに生かされるのではなく，国民による国民のためのきまりを自由につくって責任をもってやってゆけるようにしたいものだ．

いまや国民の政治・官僚不信は極に達している．改革が叫ばれているが，日本社会とくに若い人々の無気力が目立つのが気がかりだ．

新聞世論は相変わらず国になんとかせいというが，いまや国にやらせておいたのではろくなことにはならない．

いまこそ根本的に考えなおし，原点にかえって新しい制度づくりをしなければならない．国民一人一人が自分が社会に何ができるかを考えなおす時代なのである．国に求めるときではない．

ユートピアは与えられるものではない．自ら探し求め導いてゆくものである．

医療をとりまく環境がこんなに悪いのに，まがりなりにも医療社会で住専のような話にならないのは，医師の善意と使命感によるところ大である．しかし，いま一度医の原点に立って，医療制度など見直してゆこうではないか．